為ヲ認ムルコトハ、公権其モノヽ性質上許シ得ナイト。或ハ然ラバ、即チ公権其モノヲ人其者ニ□家ガ特殊ノ権利ヲ附與シタル所謂□家ノ特権階級ノミノ有スル権利ナリト解釋セシカ、其ノ特権ハ其與ヘラレタル人格者ノミノ有スルモノデアルカラ、之レガ特権ヲ委任スルコトノ不可能ナルハ論ヲ俟タナイ。然シナガラ少クモ公権ト雖モ本来選挙権ノ如ク、何人ト雖モ□家社会ノ組織員トシテ当然享有シ得ベキモノハ、所謂「□家ガ各人ニ附與スル」ノデナクシテ、当然「人其者ニ追従スル人間共通上ノ権利」デアル。次ニ□民ノ参政権ガ沿革的ニ擴張セラレツヽアルニ徴シテモ明ラカナル如ク、此ノ一般的普遍的公権ヲシテ、其ノ民法上ニ於ケル委任代理ヲ認ムルヲ否認スルコトノ根據ガナイ。

之レヲ立憲君治□ノ先覚者ト自他共ニ是認スル英吉利帝□ニ就テ観テモ、西暦一九一八年ノ□民代表法第二十三条ニ於テ、代理投票制ヲ採用シテ居ル。

或ハ而シテ委任投票ハ法ノ根據如何ニ拘ハラズ、勢力[illegible]濫用サレ、人望家又ハ勢力家ハ委任票ヲ集中シテ益々大勢ノ人ヲ政治上ノ勢力ガ集中シ、弊害ノ供ハルト、斯ノ如キ弊害ハ委任投票ヲ認ムル事ニ依ツテノミ生ズル現象ニ非ズシテ、制度ノ如何ニ拘ハラズ当然ノ帰結デアリ、斯カル先覚者ノ出現ニ、代議政治ハ運用サレルノデアル。故ニ上記ノ如キ把持ノ下ニ委任制ニ反対セントスルモノハ、所謂政策ノ為ニ法ヲ枉グルモノデアッテ、断ジテ許スベカラザルモノト云ハザルヲ得ナイ。

以上ニ依リ吾等ハ不在投票ニ委任投票制ヲ採ラザルベカラザル事ヲ述ベタ。若シモ吾等ノ主張ガ容レラレズ、不幸ニシテ実質上吾等ノ参政権ヲ拒否スルガ如キ郵送投票制ノ行ハレンカ、次期総選挙ニ於テハ選挙権ヲ行使セシガ為メノ、船舶運航上ノ大問題ガ突発スル恐レガナイニモ限ラヌ。